



86号 2022.12.20

<特集①>

第44回アイメイト・デー開催 (開催報告)

<特集②> 使用者さんに聞く

置き去りにされている視覚障害者

3年ぶりの
アイメイト・デー開催！
対面でお会いして、
喜びを分かち合いました。



連載記事

- 風を切って歩く幸せ (平松喜久子さん)
- 後援会メンバー紹介 (三村徳子さん)
(荒井公江さん)

後援会から

- アイメイト募金芳名録
- 会員のページ
 - ◆ これまでの行事
 - ・ これからの行事予定
- ◆ 役員会議事抄録
- ◆ 新入会員の方々
- アイメイトサポートグッズ



誌上パネル展② アイメイトの歴史

国産盲導犬第1号／チャンピイと後継者たち／塩屋賢一のメッセージ／いまなお続く、共生社会への道

協会だより

◆ アイメイト卒業生人数 ◆ 2022年の歩行指導 ◆ 対面での啓発活動の再開 ◆ 飼育奉仕・リタイア犬奉仕を募集しています ◆ 機関誌「アイメイト」と65周年記念誌

発行人：アイメイト後援会

編集人：福永 達子

発行所：〒177-0051 練馬区関町北5-8-7

(公財) アイメイト協会内

TEL：03-3920-6162 FAX：03-3920-6063

<https://www.eyemate-support.org/>



第44回

アイメイト・デー開催

2022年10月23日(日) 13:00～15:40、全国町村会館(東京都千代田区永田町)にて、「第44回アイメイト・デー」が開催されました。参加者は合計約230名。うち、アイメイト使用者は32組、お手伝いの後援会員は37名でした。全国で活躍するアイメイト(盲導犬)ペアをはじめ、支援者、国・自治体の職員、議員、支援企業・団体など、アイメイトに関わる人々が、3年ぶりに一堂に集いました。



アイメイトと会場に集まるアイメイト使用者さん。駅から会場までの道案内を後援会員有志でサポートしました。



後援会員が立って道案内をするポイントを示した地図(一例)。駅から会場までの所要所に立って、「声の案内版」になりました。

会場の入り口の横で実施したグッズ販売は大盛況。



アイメイトペア 32 組をはじめ、約 230 人が集まりました。



アトラクションは、サクソカルテットによる生演奏でした。

来賓祝辞

ご来賓の都議会議員・議員、東京都、練馬区などからのご祝辞



左から、左から、東京都議会議員 三宅しげき氏、東京都議会議員 柴崎幹男氏、東京都福祉保健局障害者施策推進部長 中川一典氏、練馬区福祉部長 吉岡直子氏、立教女学院小学校校長 児玉純氏、日本テレビ小鳩文化事業団常務理事 柴田吉彦氏

代表理事挨拶

真の障害者理解と共生社会に向けて 65年経っても変わらぬ大切なこと

公益財団法人アイメイト協会

代表理事 塩屋隆男

来賓の方々、アイメイト使用者の皆さま、アイメイト協会に関わりをお持ちくださっている皆さま、また本日ご参加下さっている皆さま、こんにちは。第44回アイメイト・デーにお越し下さり誠に有り難うございます。皆さまとアイメイト・デーでお目に掛かるのは3年ぶりです。

今年は国産盲導犬第1号ペアとなる河相遼さんとチャンピイが活動し始めてから65年目の区切りとなります。6月には浜松の河相さんをお訪ねしました。河相さんは当時のできごとを明確に理路整然とお伝えくださり、そのお姿とお話の中に、アイメイトペアにとっての基本となる大切な姿勢が示されていると感じました。

河相さんは、チャンピイを米国大使館付武官のノーベル大佐から譲り受けたこと、チャンピイを訓練し、更に自分に歩行指導をしてくれた塩屋賢一との出会い、職場である盲学校に快くチャンピイを受け入れてくれた学校長の存在など幾つもの偶然が良い方向に作用したとお話くださいました。この偶然の重なり合いは奇跡だともおっしゃっていました。しかし、それだけでは国産盲導犬第1号ペアの誕生は実現しなかったでしょう。

忘れてはならないのは、河相さんの淡々とした静かさの中に包まれている、朗らかさと強い意志が、チャンピイとの素晴らしいペアを築き上げていったということです。アイメイトと使用者は一心同体で、特に主人である人の明確な意志こそ、ペアの形成に



欠かせません。65年経ってもそれは不変です。

以前にもお伝えしていますが、身体障害者補助犬法の本来の目的は、この法律の第一章第一条に記されている通り、「身体障害者の自立及び社会参加の促進に寄与すること」です。犬の存在ばかりが強調され、主役であるべき障害者への視点が軽んじられることは厳に慎まなければなりません。

使用者の皆さんがアイメイトのしつけを維持して、主人としての責務を果たしながら、アイメイトと共にスマートに活動される。それによって視覚障害やアイメイトに対する誤解や偏見がなくなっていく。これこそが一番の社会啓発と言えます。主役は人間です。そして、アイメイトは対等なパートナーです。

アイメイトを使用する上での社会環境が現在のように整ったのは、ひとえにアイメイト使用者の“障害に負けず、積極的に社会参加される不断の努力”とアイメイト協会をご支援くださる方々の惜しみないご協力の賜であります。

本日も多くの皆さんとの会話や他者の話を聞くことを通じ、お互いが磨きあい、相手を認め合い、人間に主体をおいた『真の障害者理解』と『共生』につながってゆく社会になることを願っています。

最後に、国産盲導犬第1号ペアから数えて通算卒業実績がこの10月8日に1,427組となったことをお伝えして、結びとさせていただきます。どうもありがとうございました。



アイメイトを語る

スピーチの一部を抜粋して紹介します。

「右の手のすることを左の手に知らせない」 本当に心のもった飼育奉仕を

日本初の飼育奉仕者

吉田良行さん、道子さんご夫妻

ア

アイメイト協会の塩屋賢一氏との出会いから今年の3月まで様々なお手伝いをしてまいりました。私は1936年の生まれです。そして、塩屋賢一氏と出会ったのは1966年の1月です。その出会いは瞬間的な塩屋賢一氏と私との対面で、何か直感的に信頼ができたと思って、この2022年3月までお手伝いを続けてきました。

塩屋賢一氏との約束では、「吉田さん。お手伝いをしてもらうことは大変嬉しい。たった一つ条件がある。一切訓練と使用されてからの犬のことにに関しては口を出してもらいたくない」

こういう本音でものを言う人、私は大好きなんです。私もそのような性格なものですから、「分かりました。塩屋賢一理事長が頼みたいということがある。とにかくお引き受けいたします」ということで、ここまで飼育奉仕をはじめ様々なお手伝いをしてきました。

私、本業は日本キリスト教団の教会の牧師であります。渋谷で牧師の助手をしておりまして、いずれ自立したい。教会の言葉で言うと開拓伝道する。どこかといったら人神廃れる僻地に行きたい。農村が良くならなければ、日本の国は良くならない。私はそういう思いで伝道師をやりました。

それで1965年に茨城県の牛久にまいりました。そこで林の中に一軒家を建てて、66年の1月か2月だったと思いますが、塩屋賢一氏がまだ塩屋愛犬学校という看板を出している自宅にお訪ねいたしまして。それで、お訪ねした日に4頭ほど子犬を見せてくださいまして「こういう犬を訓練適齢期まで育ててやって欲しい」と。

一気に4頭と聞いてどうしようかと思ったんですけれどもお引き受けしました。飼育する手が足りないので盲導犬が行きわたっていない、そういうことでしたので次々と子犬を送ってもらって。



さっき申し上げましたように、「訓練以外のことは何でも引き受ける」と言ってしまったので、自分で飼育奉仕もし牛久教会の会員や子どもの幼稚園の父兄に協力をしてもらいながら、やってまいりました。「なんとかしてくれないか」「じゃあなんとかしましょう」と。ですから、私はその飼育奉仕は第1号だとかなんとかだということでご紹介もありましたけれどもそんな思いは何にもなかったんです。ただただ塩屋賢一氏の心意気に感動いたしましてお手伝いしてまいりました。

使用者の皆さんが今使っていらっしゃる犬たちは繁殖奉仕の方、飼育奉仕の方、指導員の方、後援会の方、様々な人たちが関わっていますが、アイメイトを使う皆さんの活躍している姿を見てこれら関係者の方たちは大変喜んでいます。決して目立とうとはしていません。

先ほど立教女学院の先生が聖書の言葉を引用されておりましたので、私も仕事柄、私の心と牛久近隣で手伝ってくださった方たちは、「右の手のことを左の手に知らせてはならない。それが本当の奉仕であり隣人愛の問題だ」そういうことを理解して下さってここまでやってまいりました。

貧しかったけれども楽しい思いでアイメイト育成に関わってまいりました。私は今年86歳になり耳も聞こえなくなっただけで、アイメイト協会をお手伝いするのも、区切りにしたいと今年の3

月をもって終了しております。

これから飼育奉仕をなさる方たち、犬を可愛がって育ててください。そしてアイメイト協会に送ったら、あとは指導員にお任せください。無事、訓練が終了して働いているということが、卒業後の写真だけで終わってしまうかもしれませんけれども、どうぞ喜んでください。使用者の方たちもそのことを心の中で喜んでください。そして、「右の手のすることを左の手に知らせない」ということが本当に心のこもった飼育奉仕である。ということが私たち初期にアイメイト育成に関わってきた者の思いです。

パソコンが発達した中でそれを厳守するということは難しい話ですが、喜びを分かち合うのはどうぞ

アイメイト協会を通したり、あまり犬に思い出を持たせて惑わせないようなことを志していただきたい。

使用者にわたった犬に対して、私どもも一度、アイメイト・デーで会ってしまったんです。その犬がですね、私どもの雰囲気を感じ取ってしまったんですね。残念なことに、その後その犬はバランスを崩して、せっかく卒業したのに使用不可能になった。これは奉仕者としても指導員にしてもアイメイト協会にしても、中途半端で別れなければならなかった使用者にとっても大変残念なことです。

語り尽くせないですけども、本当にありがとうございました。

リレーのタスキを信じてつなぐ 熱心な姿勢にパワーをもらって

アイメイト後援会 鈴木節子さん

後

援会ではアイメイト協会とアイメイト使用者の方のお手伝いを目的に活動しています。また、募金活動やチャリティグッズ販売、募金箱の設置などを行っています。今日は後援会員が30名以上お手伝いで参加しています。

私が初めて協会へ伺ったのは35年前で東京盲導犬協会の頃でした。場所は練馬区関町南にあって、武蔵野の面影のある街並みでした。犬はシェパードとラブラドルの両方がいました。

その後、後援会を知って入会しました。人数は30名ほどで、お手伝いの用事がある時に出向くという程度でした。当時のメンバーで残っているのは私を含めて2名ですが、現在は250名となり、活動も多岐にわたっています。

そして何年か経った頃、協会は新施設の建設を東村山市に計画していました。ところが理不尽な地域周辺住民の反対にあい、市の許可が下りませんでした。そこで市役所へ使用者と職員がバスを貸し切って行くというので、後援会長の夫と私も同行しました。役所で重苦しい雰囲気の中、使用者も力を落としていましたが、私一人が大声を張り上げて抗議したことを覚えています。しかし結局断念して、今の練馬区関町北に決まったわけですが、かえって今の



場所で良かったと思います。やはり練馬区はアイメイト発祥の地ですから、ずっと練馬区であって欲しいです。

いよいよ建設が決まって、使用者の同窓会が資金集めの為の募金活動を始めることになって、後援会がお手伝いをして募金箱の設置やバザー、グッズ販売などをしていきました。使用者の方たちと活動を共にして感じたのは、使用者とアイメイトのパワーです。私たち後援会はお手伝いというよりは逆にパワーを貰っているのです。それがこれまで長く続いた原動力なのだと思います。

新施設に移転してから、前理事長の塩屋賢一さんはご自宅から通われていて、若い指導員へ「犬にグッド、グッドと心から褒めるんだよ。口先だけではダメなんだから」と声をかけられていました。

後援会は協会をサポートする事が目的ですが、指導員が熱心に仕事に励む姿に接するにつけ、こちらもパワーを貰っているのです。「頑張ってください」と切に望みます。



前理事長の塩屋賢一さんが2010年9月に亡くなったときに、ご遺志により一般の葬儀は行われませんでした。そこで後援会の有志がお別れの会を開こうと、我が家に集まって相談しました。しかし私はご遺志に背くと思ひ躊躇していました。また夫を含んだ発起人たちも具体的な案がまとまらずにいました。そんな中、

「アイメイトの足跡として展示会を」と私が思いついたところ、たちまち賛同を得て、会場候補地、資金面、展示内容などが次々と提案されて、開催日を翌年の5月と決めました。それから企業へ協賛を募ることから、展示物の作成、催し物の企画、広報などと進めてきました。そして3月11日に東日本大震災があったときに、5月開催は難しいとの意見も出ましたが、結局、江戸川区施設の大きなホールで、タイトルは「盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展」を開催しました。賢一さんを忍びつつ、アイメイト協会の歴史を振り返り、多くの人たちへアイメイトの啓発が出来たと自負しています。

さて、犬についてですが、個人的にはたくさんの犬に関わってきました。

初めて協会から預かったのは高齢のリタイア犬でしたが、それから、繁殖、飼育、リタイア犬、不適格犬などすべてのステージの犬を預かりました。

今我が家には繁殖犬と不適格犬の2頭がいますが、多いときは5頭いました。夫と二人で2頭と3頭ずつ持って散歩に行きますが、夫がゴルフや釣りで居ないときは私が一人で5頭を連れて鵜飼状態で行きます。なるべく広い道を選ぶのですがそれでもすれ違う人は避けて行くので肩身が狭かったです。

これまでに多くの犬たちとの出会いと別れがありました。縁あって我が家に來た子はどの子も可愛く、

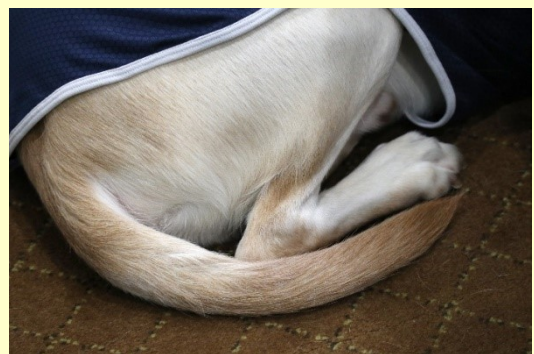
またお別れは何度経験しても辛いものです。

繁殖で生まれた子は兄弟でもどの子も違ってそれぞれに個性があり、生後2か月で巣立つときは、おとなしくて手のかからない子は愛しく、やんちゃな子はさらに愛しく、どの子も「良い子に育ってね」と次の飼育奉仕の方へ託します。あるいは他で生まれた子を私が飼育して、1年後に協会へ返す時は「たくさん可愛がってもらってね」と祈ります。繁殖で生まれた子も、1年飼育して返した子もその後は会うことはありません。思い出を胸に抱いて、きっとどこかで可愛がられて頑張っているのだと、ただ信じています。それが犬にとっても、またその時々飼育者にとっても必要なことと思います。人も親離れ、子離れが出来ないと、とかく弊害があります。それと似た部分があるのではないのでしょうか？ リレーのタスキを受けたときは全力で走り、次の走者へ渡したときは信じるのみ、そんな気持ちでアイメイトの犬たちと関わっていきたいと思います。

アイメイト協会は65年間築いた信念をいつまでも守り続けて、今後も益々発展されますよう、社会のため、私たちのためにもお願いします。

後援会では定年がなく、生涯現役で働けるところです。会員の年齢もまちまちで親子の年齢差であったり、最近は孫のような世代とも一緒に活動が出来るといふ、そこがボランティアの良いところかと思っています。

夫が2年前に脳梗塞から癌と骨折やらで6回も手術をして、会長職を続けるのは無理と思いましたがどういふ訳か快復して、今日も参加しております。まだ役目は足りていないという事なののでしょうか。いつか夫婦でリタイアの日まで、皆様に支えられて頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



塩屋賢一先生に教えていただいた 犬と歩く幸せ、犬と生きる幸せ

アイメイト使用者 佐藤由紀子さん

1

1988年2月、私は1頭目との歩行指導に臨みました。「あなたのアイメイト、ラブラドルレトリバーの名前はウエンディー、イエローのメスです」アイメイトとの結婚式での賢一先生の声を、今も鮮やかに覚えています。

すでに訓練の一線からは退いておられた先生ですが、時々私たちに同行されていました。

当時の協会は今よりずっと吉祥寺に近く、確か歩行指導3週目に、吉祥寺駅前まで徒歩で往復のコースが設定されていて、私とクラスメイトKさん、指導員Sさん、先生の4人で歩いた帰り道、もうすぐ協会というところまで来た時、「みんなでお茶でも飲んでいくか」と先生。

入ったのはデニーズ、アイメイト同伴での飲食店入店のハードルが今よりずっと高かった時代、「卒業したらアイメイトと一緒に、どんどんいろんなところに行きなさいね。」と励ましていただいたこと、テーブルの下に伏せたアイメイトのリードのナスカンを踏む足にも力が入って、緊張しながら先生のおごりで飲んだジンジャーエールは思い出の味です。

卒業して1～2年たった頃、その日は何かの取材対応のお手伝いで協会にうかがう約束でした。

朝ウエンディーにブラシをかけていると、指が彼女の胸の真ん中にある、昨日まではなかった腫れもののようなものに触れました。

悪い想像が瞬間で黒雲の様にたちこめて、先生に電話しました。

「少し遅れてもいいから、すぐに獣医さんに診てもらって、それから来なさい。」

ここからの話はかなりお恥ずかしいのですが、その腫れものを診た獣医さんはこともなげに、「ああ、

これは乳首ですね。左右対称でない位置にあることも珍しくないんですよ。」とおっしゃたのです。

協会に着いた私の顔を見た賢一先生は、真っ先に「ウエンディーどうだった？」と



お尋ねになりました。

病院での顛末をお話しし終えたところに、たまたま通りかかった若い指導員を呼び止めた先生、いきなり「君たちは歩行指導中、生徒に何を教えているんだ」とカミナリを落としたのです。

「卒業した生徒の中には遠方に住んでいて、次の犬との訓練まで協会に来ない人もいるのだから、犬の体のこともちゃんと教えなきゃだめじゃないか！」

かしこまって「はい、はい」と応える指導員の隣で、穴があったら入りたかったです。

先生との思い出は、ほぼ1頭目と過ごした10年間と重なります。ウエンディー7歳の時、我が家は引っ越しをしました。新居にも慣れてきたある夜、夜中に彼女が突然「キーッ！」と悲鳴のような声をあげ、それが毎晩続き、しかもどんどんひどくなっていくのです。でも昼間は普通に仕事をしてくれるのだから不思議でした。

困り果てて先生に相談すると、「夜中に寝ぼけて風の音か何かに驚いて、怖い思いをしたんじゃないかな。」とおっしゃり、アドバイスをいただきました。自分でもいろいろ工夫して、落ち着くまでに1カ月ほどかかりましたが、チャンピイを訓練する前に先生自身が目隠しをして訓練した塩屋家のシェパードアスターの話や、犬の心についての話を聞かせていただけて、振り替えればいい勉強になりました。

まだ20代だった私には先生はどこか祖父のようで、優しいけれど時々怖くてちょっとけむたい大きな存在でした。

犬と真剣に向き合うこと・パートナーとしての彼らを信じる大切さ・何より犬のすばらしさを教えて

いただきました。

「ウエンディー、いいアイメイトになったね」とほめていただけた誇らしさ、「犬に尊敬される主人になりなさい」あの頃それがどんな意味なのか、正直わかりませんでしたけれど、今アイメイトとの関係

がギクシャクしてうまくいかない時、この言葉を思い出し、自らをかえりみます。

賢一先生、犬と歩く幸せ、犬と生きる幸せを私に与えてくださり、ありがとうございました。先生を一生忘れません。

65年前から変わらず大切なこと コツコツと日々、仕事に励んでいます

アイメイト協会 歩行指導部長 原 祥太郎さん

ア アイメイト協会にとって65周年という節目で、勤続24年を迎え、もうすぐ四半世紀この仕事に従事していることになります。この間、多くの使用者が歩行指導を受けて協会の玄関から旅立っていく凛々しい姿を目の当たりにし、私も日々、エネルギーをもらっています。20年という月日は、過ぎてしまえば長いようであっという間です。

当時の私の仕事は、賢一さんの送迎でした。賢一さんとは、自宅から協会だけでなく、病室の送り迎えで多くの時間を過ごすことができました。その時に色々な話をしたことが、私の宝になっています。病院が終わると毎回、「原くん、何かおいしいものでも食べに行こうか」と誘ってくださっていました。今でもその言葉が耳元でよみがえります。

賢一さんが、入校式、卒業式に、繰り返し言っていた言葉があります。「視力は無くても心の視野の広い、明るく積極的な社会人になりましょう」今でも卒業が決まった時に読むマナー集の1行目に記されていますし、協会のモットーです。アイメイトを持つことにより積極的に社会参加をし、壁の無い社会の実現を目指そうという目的は、いまでも脈々と職員に受け継がれています。

また、賢一さんはクラス指導中の日曜日は毎回、ケーキを持ってお茶をしにいらしてました。ケーキの食べ方、お茶の飲み方に始まり、社会参加するにあたって必要な知識を生徒に伝えていました。アイメイト歩行以外のことでもあきらめることなくコツコツと教えている姿は、厳しくもあり、あたたかく見守っていて、常に応援しているように見えました。

私たち指導員には、「使用者が一人で何でもできる



ように、社会に出て困らないように指導しなさい」と常におっしゃっていたのを思い出します。その時、障害があるとかないとか関係なく、一人の人間として真剣に向き合っている尊重している姿を強く感じました。

65年の時を経た今でも、私たち歩行指導員の仕事は、犬の訓練、歩行指導、啓発活動、指導員の育成です。とくに、指導員の育成は、本当に長い長い時間を要します。毎回犬も人も違うため、マニュアルが存在しません。繰り返し失敗しながら、少しずつ学んでいく修行の毎日です。コツコツという言葉しか当てはまらない本当にコツコツの仕事です。ここにいる指導員一人一人がコツコツと仕事に励んでいます。ぜひ、拍手をして応援していただければと思います。

(会場からパチパチと大きな拍手)

塩屋賢一が1957年から始めた強い意思は、65年経った今もなお、何も変わらず続いています。これからも使用者と夢を共有し、ぶれることなく学びながら、一人でも多くの視覚障害者がアイメイトを使い、自由自在にどこでも歩くことができる社会になるようお願い、仕事を続けていきます。

置き去りにされている視覚障害者



2016年4月1日から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」の改正法が、昨年5月に成立しました。この改正法は、公布日である2021年6月4日から起算して3年以内に施行されます。

これにより、今まで民間事業者には「努力義務」とされていた合理的配慮の提供が、国や地方公共団体などと同様に「法的義務」となります。ただし、違反した場合の罰則規定は設けられていません。

さて、この法律の対象となる障害者は「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する）がある者」とされていますが、身体障害者という車いすを利用しているような方たちを思い浮かべることが多く、実際にバリアフリーと言われる設備やサービスも、車いすを想定したものに偏りがちです。もちろん車いすを使って生活している方たちが、不自由なく社会生活を送れるようになるのは素晴らしいことですが、その陰で視覚障害者への配慮が置き去りにされていると感じるのも事実です。

テレビでは・・・



例えばアメリカ大統領、プーチン大統領、ウクライナ市民などのコメントが流れる時、外国語の音声と共に字幕が出ていますが、字幕を読めない**視覚障害者にはコメントの内容が伝わりません**。また、事件報道などでインタビューした人の音声加工されている場合も、字幕に頼ることができれば聞き取れますが、**音声だけでは何を言っているのか分かりにくい**こともあります。

そういう時、視覚障害者に対する配慮が置き去りにされていると感じます。日本語や、分かる声の吹き替えがあれば、見える人にも見えない人にも分かりやすいと思うのですが。

ホールでも・・・



最近はホールで車いす用の席が用意されていることも多くなってきました。座席を作らずに、車いすのまま客席の中ほどなどで観覧できるようにスペースが設けられているものです。

しかし、**盲導犬使用者の席というはありません**。自分の横に盲導犬をダウン（伏せ）させておけるように通路側の席を確保してもらえるだけでいいのですが、ネットで申し込む時にそういう選択はできないことが多いので、チケットがとれてから電話をかけて個別に交渉しなければなりません。

みんなのトイレと言うけれど・・・



「多機能トイレ」「みんなのトイレ」などと呼ばれている、車いすでも入れるトイレがあります。このトイレは車いすの方が利用される他、何らかの理由で介助が必要な場合に異性の介助者が一緒に入れる、オストメイト（人口肛門等保有者）用に排泄物の洗浄ができる、おむつ交換用簡易ベッドがあるなど、多目的に利用できるようになっています。出入口の開閉がタッチセンサーになっていたり、便器の洗浄もレバーではなくボタン式や自動洗浄など、便利な機能満載のトイレです。

しかし視覚障害者にはどうでしょうか。アイメイトと一緒に入れるので便利ですが、広過ぎて便器を探すのも大変です。トイレなので、あっちこっち手で触りたくもありません。けれど出入口は別です。以前のような、金属で「カチャン」と上から降りて施錠するタイプの方が手探りで見つけやすく、タッチセンサーだと不用意に触れてしまうこともあります。便器の洗浄方法も、このトイレに限らずボタン式、タッチ式、センサー式、レバー式など多様過ぎてすぐには分からないことも多く、**視覚障害者に優しいとは言えないのが現状**です。

アイメイトとどこへでも外出できますが、生理現象に不安を感じては躊躇してしまいます。

アイメイトのワン・ツー場所があれば・・・



人間のトイレだけでなく、アイメイトのワン・ツー場所も外出時の悩みの種です。

同伴者がいない時は、人間のトイレの場所も人に聞いたり案内してもらわなければ分かりませんが、**さすがに犬のおしっこ場所を聞くのは無理**があります。

2～3時間の外出なら、家でワン・ツーを済ませて出かければ問題ありませんが、片道1時間以上かかる場所に出かけて目的の用事(コンサートや買い物 etc.)の他に途中で食事もするととなると、かなりの長時間になります。駅やコンサートホール、大型の商業施設などにワン・ツー場所があると、外出時の心配事が一つクリアになるのではないのでしょうか？

無くならない入店拒否

今まで、アイメイト使用者が入店拒否を受けた場合は、飲食店の責任者に身体障害者補助犬法などを説明して個別に対応してきました。しかしこれでは、たまたま入店拒否をされた1店舗にしか伝わりません。

これからは、使用者が個々に行う「点」での啓発にではなく、行政による「面」での啓発活動を推進していけたらと思います。

厚生労働省や、東京都の場合は保健福祉局などが中心となって、管轄の飲食店への指導や啓発を積極的に行い、**盲導犬の入店を拒むことは、それを使う人間を差別していることになるのだと、障害者差別解消法の解釈とともに改めて認識**してもらう必要があると思います。

提案があります

学校や病院・劇場・ホテル・駅や商業施設など、法律で定められた特定建築物に設置が義務付けられている「多機能トイレ」を、ワン・ツー場所に使えたら、とても便利だと思いませんか？

もちろん今のままでは、汚れた床をどうするの？水を流して大丈夫なの？など、無理そうな理由ばかりが浮かびます。そうではなくて、どうやったらワン・ツー場所として使えるようにできるのか考えたいのです。今やAIの時代です。無人のコンビニだってあるし、さまざまなロボットも開発されています。費用もそんなにかけずに、ワン・ツーだけでなくみんなが便利になる、そんな設備が備わったトイレになったら素晴らしいと思いませんか？

みんなでアイデアを出し合って考えませんか？

アイメイト使用者からのメッセージ

家族と生活を共にしている視覚障害者はテレビの音声を聞くことが多いと思われます。晴眼者(見えている人)が画面を見ながら聞くと、画面が見えなくて音声だけを聞くとでは理解に大きな違いがあります。

人には聴覚・視覚・嗅覚・味覚・触覚の五感がありますが、視覚は全体の87%を占めていると言われます。視覚は常に他の4感覚の補いをしているそうです。例えば道を歩いていて後ろで音がした時に、聞くだけでは何の音か判断できなくても、振り返って目で確認することにより、安心したり注意して歩いたりすることができるのではないのでしょうか。

障害者用のトイレなども、できれば一度、アイマスクをつけて使用を体験されてみれば、視覚障害者にとって何が便利で何が不便なのか、お分かりいただけだと思います。

当事者目線に立つということ

自立して、アイメイトとスイスイ歩いている使用者の方たちも、日常の中で我慢したり不自由を強いられたり、無視されたと感じたり、差別を受けたりすることが多々あると思います。今回の記事の企画は、あるアイメイト使用者から「多機能トイレ」について、実は視覚障害者の視点が欠けているのだと聞いたことから始まりました。

障害者と一括りに言っても、それぞれ体や心の事情は違うし、これをやったから障害者対応は出来ているという思い込みは、置き去りにされた人に気付く機会を失わせてしまいます。いろいろな立場の人の当事者目線に立って考える事こそ、心のバリアをなくし、誰もが暮らしやすい社会を作るのだと思います。今回の企画によって、見過ごされていた何かに一石を投じることができれば嬉しいです。

国産盲導犬第 1 号

愛情でチャンピイを盲導犬に

賢一は、まず、チャンピイの訓練から始めます。河相さんからの依頼を受けた1週間後にはチャンピイを自宅に連れ帰り、生活を共にしました。賢一のチャンピイの第一印象は「愛嬌はあるが、片方の耳が垂れていて、目の輝きも鋭さに欠けている」という、あまりいいものではありませんでした。

しかし、実際に訓練を始めてみると、チャンピイはアスターたちに劣らず、教えたことをよく覚えてくれました。他の犬とけんかをするといった欠点もありましたが、叱ってやめさせるのではなく、よくスキンシップを取って愛情を注ぎ、信頼関係を育てていきました。そして、目隠しをして毎日一緒に街を歩きました。数カ月後には、チャンピイは脇見をせずにまっすぐ歩くようになり、やがて障害物を避けたり、「ワン・ツー」という指示に従って排泄をするなど、盲導犬に必要な能力を一つずつ身につけていきました。



車道と歩道の段差を教える賢一

命がけの歩行指導

1年余りのチャンピイの訓練を終え、1957年夏、河相さんがチャンピイと共に歩くための歩行指導が始まりました。賢一はまず、信頼関係を築くために、チャンピイの日常の世話を河相さん自身が行う訓練をしました。続くハーネスをつけての歩行では、最初のうちは河相さんとチャンピイの息がなかなか合いませんでした。それに、歩行指導を行っていた河相さんの実家がある東京・大森の街は車の往来が激しく、危険でいっぱいでした。

そこで、河相さんが横断歩道などで「行け」と指示を出しても、チャンピイは車が来たら後戻りして指示に従わない、という後に「利口な不服従」と呼ばれる訓練を施しました。賢一が車を運転して、道路を渡ろうとする河相さんとチャンピイの前にわざと突っ込んでくる、という荒療治をしたこともありました。

それらをマスターして迎えた夏休み終盤のある日、賢一は河相さんに、まだ行ったことのない1.5kmほど先の郵便局で切手を買って帰ってくるという課題を出しました。河相さんは「チャンと一緒になら大丈夫」と、あえて大きな通りを信号のないところで渡る難しいコースを選び、見事に切手を手に帰ってきました。これが、国産盲導犬第1号が誕生した記念すべき瞬間となったのです。



河相さんとチャンピイの歩行を見守る賢一（左）

今年 2022 年は、日本初の国産盲導犬チャンピイ誕生から 65 周年。2021 年 5 月に、練馬区『Coconeri ホール』で開催された、盲導犬啓発イベント「盲導犬(アイメイト)って知ってる ～練馬から日本を変えたパイオニアの物語～」より、歴史のパネルを抜粋してミニ通信誌面で紹介します。計 9 枚の歴史パネルから、前号に続いて、後半 4 枚分を紹介します。

チャンピイと後継者たち

河相さんと共に教壇に



河相さんと共に教壇に立つチャンピイ

晴れてチャンピイとペアになった河相さんは、当時、大学を卒業して滋賀県彦根市の盲学校の教師になっていました。彦根での生活が始まると、河相さんはチャンピイと町を精力的に歩きました。もちろん、学校でも一緒でした。生徒たちはチャンピイを大歓迎。チャンピイは授業中はいつも教卓の脇で静かに伏せていました。

河相さんは、チャンピイとの日々の暮らしの中で感じたことや問題点、質問をまとめて「チャンピイ通信」と名付けて賢一に書き送りました。それを読んだ賢一は、ある日、彦根までこっそり様子を見に行きました。すると、チャンピイは物陰から伺っていた賢一を横目でチラッと見ただけで、河相さんの指示に従ってまっすぐ歩いていきました。賢一は、その姿を見て、河相さんとチャンピイが名実ともに自立したペアになったことを確信したのでした。

日本初の盲導犬として、チャンピイは、新聞や雑誌で度々紹介されるようになりました。河相さん、賢一と揃ってテレビに出演したこともあります。そして、

1967年に12歳で老衰でこの世を去るまで河相さんの目として活躍しました。河相さんは、その後も長年教師を続け、ローザ、セリッサ、ロイドという3代のアイメイト（盲導犬）と共に歩み続けました。

チャンピイに続け！

チャンピイの活躍に刺激を受けるように、以後、賢一のもとに続々と盲導犬育成の依頼が舞い込みました。1958年3月に卒業（歩行指導を終えてペアとして社会に出ること）した第2号の松井新二郎さんは、盲人福祉施設の職員として視覚障害者の社会参加に尽力しました。初の女性使用者・戸井美智子さんは、英語の先生。渡米経験もある自立した女性です。

河相さんをはじめとする初期の使用者のパイオニア精神は、現在のアイメイト使用者にも脈々と受け継がれています。「アイメイトがいれば、いつでもどこへでも行ける」という合言葉のもと、自立したアクティブな人生を歩んでいる方ばかりです。



初の女性使用者・戸井さんとオディの歩行指導の様子

塩屋賢一のメッセージ

塩屋賢一は2010年9月12日、88歳で永眠しました。アイメイトへの思いを未来へと繋ぐ賢一のメッセージを紹介します。

心でつき合うアイメイト

私はいつも、「アイメイトは目です」と言い続けてきました。卒業生が増え、使用者の年代の幅が広くなり、受け入れられる社会環境も変わってきて理解も深まり、使用者にとっては良い時代になったと思います。使用者一人一人が開拓者という感じで努力した10年くらい前と比べ、受け入れられるのが当然のようにになっている現況は有難いのですが、それが当たり前として使用者側の気持ちやマナーにゆるみが出ることがないかと気になるこの頃です。(2001年5月30日)

訓練にはいとおしむ心を、視覚障害者には情熱を

訓練には犬をいとおしむ心を、視覚障害者には「何としても独立歩行できるようになってほしい」という情熱を持って指導に当たって欲しいと思います。一人一人・一頭一頭それぞれ違います。そのペア歩行を完成させるにはマニュアルを消化するのではなく、個々へのプラスアルファの対応の工夫を要します。それでも適合できない人も、犬もいます。それを無理矢理適合させる事はできません。その判定は常に悩むところですが、そこをきちんと判定することがアイメイトの真価に繋がります。視力の有無に関わらず、「心の視野を広く持って明るく積極的な社会人になりましょう」というのがアイメイト協会のモットーです。(2005年6月20日)



賢一は常に視覚障害者と犬に敬意を払っていた

塩屋賢一のおもな受賞歴

■厚生大臣表彰 (1979年)

視覚障害者福祉で実績と功績を残したことが認められた。

■吉川英治文化賞 (1982年)

なかなか日の当たらない盲導犬育成事業を長年地道に行ってきたことが讃えられた。

■勲五等瑞宝章 (1993年)

盲導犬(アイメイト)事業を通じて社会福祉に長年携わってきた功績が認められた。

■ヘレン・ケラー・サリバン賞 (2002年)

アイメイトを通じて視覚障害者に歩行の自由を与え、自立と尊厳の獲得、社会参加を支援した貢献が認められた。



賢一と和子夫人

いまなお続く、共生社会への道

アイメイト協会の誕生

チャンピイ以降、盲導犬を希望する人が増えるのに合わせ、組織だった育成事業が求められました。賢一は、1967年に『日本盲導犬協会』を設立。1970年には一部の理事たちとのポリシーの違いから同協会と決別しますが、翌71年に新たに『東京盲導犬協会』を設立します。1989年には「盲導犬ではなくアイメイト」の考えのもと、『アイメイト協会』に改称。2010年に賢一が死去した後も、賢一の子息と育成法を受け継いだ後継者たちによって公益財団法人として事業を継続しています。

アイメイトの社会参加を目指して

初期のアイメイト使用者は、犬と行動を共にしているために、「電車には乗れない、職場や学校と一緒にいけない、公共の施設にも入れない」という三重苦に悩みました。現在では、盲導犬の存在を理由とした受け入れの拒否は法律違反とされるなど、社会体制が整ってきていますが、法律がアイメイト（盲導犬）との共生を実現したというよりは、アイメイト使用者個々の努力が実を結び、社会が動いた結果だと言っているでしょう。

例えば、1970年から近年まで長きにわたってアイメイト歩行を続けた石川県の佐藤憲さんは、奥様と共に地元のバス会社に直談判し、現在では当たり前

になっている公共交通機関の自由乗車の先鞭をつけました。それに限らず、多くのアイメイト使用者が、入店拒否や乗車拒否と戦い続けてきました。

その結果、現在では「道路交通法」が改正され、「身体障害者補助犬法」「障害者差別解消法」などが成立し、盲導犬の存在を理由に入店拒否や乗車拒否をしてはならないことになっています。しかし、個別具体的な例では未だ入店拒否・乗車拒否の報告が相次いでいます。2020年2月から3月にかけて行われた全国のアイメイト使用者に対するアンケート調査でも、入店拒否をされた経験があると答えた人は62%に達しました。

新型コロナウイルスの脅威にさらされている現在、視覚障害者の重要な情報取得手段である「触る」ことが忌避される傾向などにより、視覚障害者が不利益を被るケースも見受けられます。グローバル化が進む中、世界的な視野で共生社会をあらためて考え直す時期ではないでしょうか。



グローバル化が進む今こそ、共生社会をあらためて考えたい

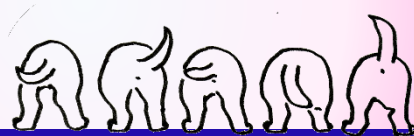


賢一の子息と訓練・歩行指導法は、現在のアイメイト協会の歩行指導員たちに受け継がれている

協会 だより



65th Anniversary



アイメイト卒業生人数(2022年8月～11月)

期	卒業日	人数
第488期生	10月 8日	2名
第489期生	11月12日	2名

【累計 1,429名】

《卒業予定》12月以降、下記のクラスが予定されています。

第490期生	12月17日	2名
第491期生	2月 4日	3名
第492期生	3月25日	2名

アイメイト実働数

180組

(2022年 11月12日現在)

全国の盲導犬 実働数

848組

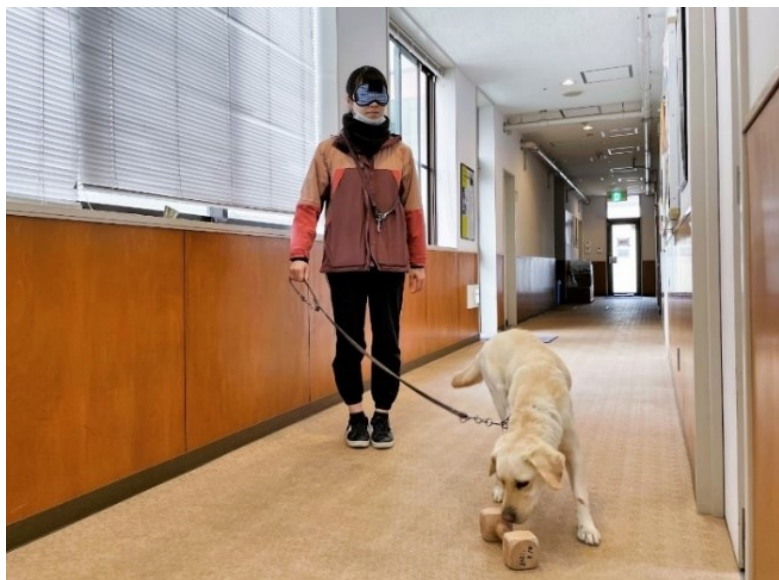
日本盲人社会福祉施設協議会発表
(2022年 3月31日現在)

2022年も残すところわずかとなりました。

後援会員の皆さまへの感謝をこめて今年最後の「協会だより」をお届けします。

1. 2022年の歩行指導

社会全体が暗中模索しながら進んできた3年弱でしたが、その間もアイメイトの育成と視覚障害者の方々への歩行指導を滞りなく進めることができました。また、春には新しい歩行指導員が誕生しました。これもひとえに、皆さまのご協力とご支援の賜物です。アイメイトペアの卒業実績は1429組(2022年11月12日現在)となりました。年明けの歩行指導に向けて、今日も指導員と候補犬が訓練に励んでいます。



「くわえて持ってくる」訓練では様々な形状や質感のものを使います

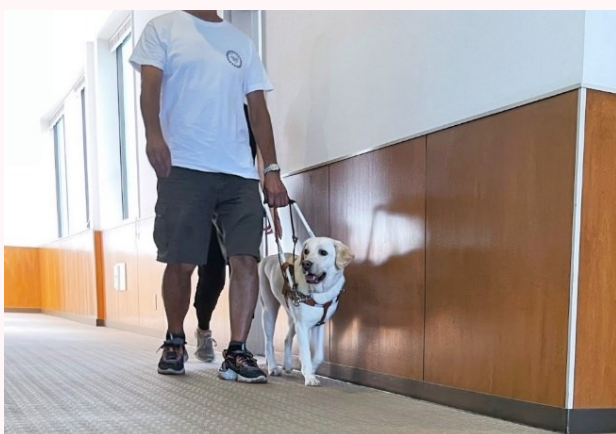


2. 対面での啓発活動の再開

アイメイトの訓練、歩行指導と並び大切な事業の 1 つが社会に対する啓発活動です。視覚障害やアイメイトについて理解を深めていただくことは、アイメイト使用者をはじめ視覚障害者の更なる社会参加の促進に不可欠です。コロナ禍で啓発活動の形も変わり、オンラインの活用など新しい取り組みを始めてきました。それらを継続しながら、今年は従来の対面式の啓発活動も再開しています。企業や学校などでお話させていただいたり、イベントのブースに後援会の皆さまと一緒させていただいたり、人と人のつながりを直に感じる感覚を思い出す 1 年でした。

3 年ぶりに「アイメイト・デー」を開催することもできました。当日は多くの後援会員の皆さまにお手伝いいただき、無事に会を終えられたことあらためて感謝申し上げます。

協会施設での見学日は 7 月より再開し多くの方にご参加いただいています。見学日の様子を写真で少しだけご紹介します。



目隠しをしてアイメイトと歩く体験歩行も実施



時計の文字盤の並びを活用して位置や方角を伝えるクロックポジションを説明

見学日の次回開催は 2023 年 1 月 28 日(土)を予定しています。お申込みの受付開始は協会 HP の「お知らせ」や Facebook の投稿でお知らせいたします。

3. 飼育奉仕・リタイア犬奉仕を募集しています

アイメイト協会の事業は、様々なボランティアの方々に支えられています。アイメイト候補の子犬を生後 2 カ月から約 1 年間預かっていただく「飼育奉仕」、アイメイトのお仕事を引退したリタイア犬をご家族の一員として迎えていただく「リタイア犬奉仕」もなくてはならない大切なボランティアです。関心を寄せていただきましたら、HP のお問い合わせフォームまたはお電話にてご相談ください。(電話:03-3920-6162)

【ご参考】飼育奉仕の募集については協会 HP にも情報を掲載しています。

<https://www.eyemate.org/doc/support/papamama/>



4. 機関誌「アイメイト」と 65 周年記念誌

コロナ禍で一度休止していた機関誌『アイメイト』ですが、今年は装いも新たに 52 号を発行することができました。ご好評をいただきうれしく思っております。また、皆さまのお手元に届いた頃ぐらいから、サポート会員やご寄付のお問い合わせを立て続けにいただきました。隅々まで読み、支援のページにも目を通してくださりどうもありがとうございます。今年は 65 周年を記念して、『アイメイト 65 周年記念誌 EYEMATE 未来へつなぐ』も発行いたしました。ご希望の方は HP のお問い合わせフォームまたはお電話でご連絡ください。機関誌、記念誌とも数に限りがあります。

アイメイトサポートグッズとは？

アイメイトサポートグッズは、収益をアイメイト協会に寄付するためにアイメイト後援会員が企画開発・制作しているチャリティグッズです。グッズの種類は文具、アクセサリ、雑貨など30品目以上。いずれもアイメイトやアイメイト候補の子犬をモチーフにしています。

ご購入はオンラインショップで！ 電話・FAX・メールでも購入できます

アイメイトサポートグッズは、オンラインショップ・電話・FAX・Eメールによる通販、及び各地の学園祭・お祭りなどのイベント会場での直販にてお求めいただけます。**※新型コロナウイルス流行の影響で多くのイベントが中止になっています。ぜひ、オンラインショップをご利用ください。**

オンラインショップ <https://shop.eyemate-support.org>

(電話) 090-4245-8226 (FAX) 03-6336-8870 (Email) goods@eyemate-support.org

担当・内村浩介

おすすめ

アイメイト LINEスタンプ Vol.1 40種類セット ¥250

※LINE STOREからのダウンロード販売です (下記URL・QRコード)
<https://store.line.me/stickershop/product/14945892>



アイメイト Lineスタンプ Vol.1

QRコードからも販売サイトにアクセスできます

40種類セット 250円 / 100コイン
<https://store.line.me/stickershop/product/14945892>



SALE ~~¥1,200~~ → **¥1,000**

立体布マスク (アイメイトイラスト) 白・青・赤

- ◆かわいいアイメイトのイラスト入りの立体型マスクです。
- ◆表生地はデザインプリントが映えるポリエステル生地、裏面は肌触りの良いダブルガーゼの綿100%です。日本製のしっかりとした縫製。
- ◆男女共用のフリーサイズ (大人用)。

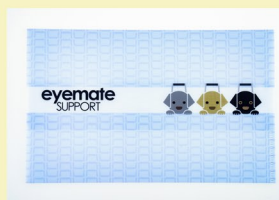
※色は白・青・赤よりお選びください。

サイズ：折りたたみ時 H9.1cm x W13.2cm



SALE 抗菌マスクケース 3頭アイメイトイラスト

~~¥800~~ → **¥600**



- ◆クリアファイル状の三つ折りタイプのマスクケースです。
- ◆立体タイプでも、長方形タイプでも、ほとんどの形状のマスクが収納できます。
- ◆表面に抗菌加工が施されています。
- ◆3頭のアイメイトのイラスト入り。

サイズ：22cm x 13.8cm

送料無料対象商品

マスクケースのみでも他商品との同梱でも送料無料。



最新情報はアイメイト後援会Facebookページで

<https://www.facebook.com/eyemate.support/>



オンラインショップは「アイメイトグッズ」で検索！ 全商品がご覧いただけます

しっぽが揺れるアイメイトピンブローチ (金) ￥1,000



◆アイメイトの後ろ姿のピンブローチ。しっぽが左右に動き、ハースも上下に可動します。

◆色はゴールド。以前の商品（シルバー）と形状は同じです。

高さ：2.5cm

ミニレター (一筆箋) 子犬食事 ￥400 大きさ：縦8cm×横19cm
便箋枚数：25枚



- ◆アイメイト候補の子犬たちの写真入りのミニレター（一筆箋）です。
- ◆表紙と中面の右隅に並んで食事をする7頭の子犬たちの写真をレイアウトしました。
- ◆表紙にはアイメイト候補の子犬についての解説文が書かれています。啓発グッズとしても最適です。

フォトブック「リタイア犬日記」

A4判 ￥3,000 / A5判 ￥1,800

- ◆雑誌「愛犬の友」での連載を経て「バンガードインターナショナルフーズ」HP及び「POCHI」のコラムに掲載されたリタイア犬日記をフォトブックにまとめました。プロカメラマン・ライターの内村コースケ氏が、自身のリタイア犬との暮らしを写真と文で綴っています。連載未掲載の内容を加えたフルカラー144ページ。
- ◆アイメイト事業への理解が深まる内容となっております。啓発にもご利用ください。
- ◆写真の美しさが映えるA4判とコンパクトサイズのA5判の2種類を用意しました。ご注文時にサイズをご指定ください。



送料無料対象商品

フォトブックのみでも他商品との同梱でも送料無料で。

ミニタオル・イラスト ￥500



- ◆"ヘソ天"で寛ぐアイメイトをイメージしたイラスト入りのミニタオル。
- ◆リタイア犬奉仕家庭の方が愛犬をモデルにデザインしました。
- ◆裏面は白の無地。

色：白地 / 枠・青
サイズ：22cm x 22cm
素材：綿100%

クリアファイル2枚組 (S)

子犬寝姿・歩行指導 ￥300



- ◆A4サイズのクリアファイル2枚組です。
- ◆片面は全面写真。クリア（透明）面は中の書類が見えるようになっています。
- ◆写真は、
A. <お腹を出して仲良く眠る子犬たち>
B. <真剣な表情で歩行指導を受ける候補犬>です。クリア面の一部にも写真が入っています。

Eyemate"s" Tシャツ (青) S M L

S・M・L 各¥1,800



- ◆アイメイト支援する中学生が、心を込めて描き下ろした<Eye-mate"s">のロゴ入りTシャツです。
- ◆"s"の意味は「支援の輪」「アイメイトファミリー」「みんなのアイメイト」など自由に解釈してください。

色：青（ロゴは白）
サイズ：S・M・L（※大きめのアメリカンサイズです）
綿100%

アイメイトサポートグッズ・オンラインショップ カード・銀行振込・代引

<https://shop.eyemate-support.org>

TEL：090-4245-8226 FAX：03-6336-8870

Email：goods@eyemate-support.org

お買上げ5,000円以上送料無料
(5,000円未満は全国一律500円)

※一部商品は金額に関わらず送料無料

2023 アイメイト・サポートカレンダー

<送料無料> 他商品との同梱でも送料無料です。 ¥1,000

アイメイト協会公認のカレンダーです。今年も好評販売中！

※ 例年12月中に品切れとなります。お早めにお求めください。



子犬のポストカード（4枚組）つき！

見開きA3サイズ13枚の中綴じ仕様

◆誕生から引退後の生活まで、各ステージのアイメイトと人々の絆をテーマにしたカレンダーです。

◆長年アイメイトを撮影しているプロカメラマンが現役アイメイト、アイメイト候補の子犬、訓練・歩行指導などを季節感と共に撮り下ろしました。

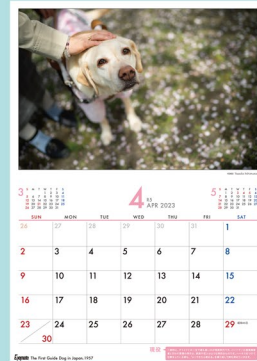
◆写真のキャプションや巻末の特設ページにより、アイメイトへの理解を深めていただける内容になっています。教材や啓発資料にも最適です。

◆今年の特集ページは、「アイメイト・サポートカレンダーの歩み」。2022年はアイメイト65周年。「アイメイト・サポートカレンダー」も2023年版で14冊目になります。2010年からの表紙画像と共にカレンダーの歴史を振り返ります。

発行：アイメイト後援会

監修：（公財）アイメイト協会

撮影：内村コースケ



2023 アイメイト・サポートカレンダー mini（卓上）

<送料無料> 他商品との同梱でも送料無料です。 ¥800

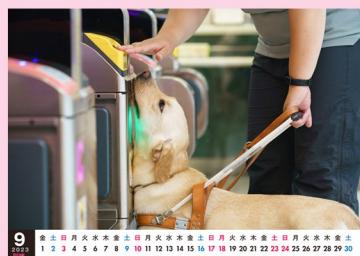
昨年に続き、ご要望が多かった卓上カレンダーを作りました！



◆透明PET製の組立式スタンドに2L判（127x178mm）の日付入りの写真が12枚+表紙写真1枚が入っています。

◆スタンドを組み立てると卓上に置けるようになります。また、壁掛けフックや画鋲を通せるタブつきですので、壁掛けカレンダーとしても使えます。

◆壁掛けタイプの「アイメイト・サポートカレンダー」とは別カットを使用しています。



お求めはネットショップで！（カード・振込・代引）

『アイメイトサポートグッズ オンラインショップ』

<https://shop.eyemate-support.org>